Smile Woman!
インタビュー51
この人の仕事のカタチ
どこか輝いてみえる「仕事」をしているあの人にズームアップ。

素晴らしい寒風陶芸会館 住民が集い誇れる地域に

寒風陶芸会館 館長
小田 礼子さん

Reiko Oda

「日本のエーゲ海」と呼ばれる牛窓には数々の文化財が点在する。その1つに「寒風古窯跡群」（瀬戸内市牛窓町）が上げられる。ここは、古代の須恵器が発見され、備前焼発祥の地とされているが、その名はあまり知られていない。史跡のすぐ南側に建つ「寒風陶芸会館」館長の小田礼子さんもその名を一年半前に初めて知った一人。この素晴らしい施設を知らなかったショックと同時に「ここを広めることが自分の使命」と強く感じ東京から地元岡山へ帰ることを決意した。

人生の集大成の仕事に

東京では旅行雑誌のライターとして広く活躍していた小田さん。「陶芸に関しては全くの素人ですが、自分の経験で施設を盛り上げることは出来る」と昨年4月に寒風陶芸会館の館長に就任した。「陶芸の知識をはじめ、施設の事務処理や陶芸家さんたちとのお付き合い、どれも学ぶことばかりでした」と振り返る。その苦労は計り知れないが、彼女の凛とした姿と笑顔には充実感が漂っていた。「大変ですけど、自分がやろうと決めたことですから頑張れます。この仕事が人生の集大成のような気がして…」―常に自分の選んだ道を迷わず進んできた人の言葉だ。

素人感覚大切に取材経験生かす

素人感覚を大切にしながら、取材してきたライターとしての目線や経験を生かし奔走する日々。「休みも何らか仕事をしていることが多いですね」―就任から1年が過ぎた今も全力疾走で、現在は11月3日（土）開催「陶芸まつり」の成功という大きな目標に向かって邁進している。そんな彼女の最大の夢は「この施設が地域の方が集う場になること。そしてこの地域を人々が誇れる地元にすること」。それは地元の方が愛してこそ魅力ある地域となることを彼女は知っているから。

田舎暮らしを楽しむ

「新天地で一番苦労したことは田舎暮らし」と笑う。虫との闘い、雑草との根競べ・・・それも今では生活の一部になっているようだ。私生活でも地域の方とのふれあいを楽しんでおり「この前は近所の方に誘われて潮干狩りに行ったんです」。たまの休みには、美術館巡りをして備前焼の知識を深めたり、以前より趣味だったカメラで野草を撮影して歩く。「陶芸も、この地域も、ここに住む方々もすべて好き」だから趣味と仕事が一緒になっても苦にはならない。

撮影・取材・文／スマイル編集室